昭和大学病院

クオリティインディケーター（QI）成果報告
〔脳神経内科〕

指標名

脳神経内科領域疾患における神経緊急疾患の入院割合

目標・ゴール

脳卒中など神経救急に力を入れていることの評価とする。

明確な基準はないが、ここ 2 年の傾向を参考に、50%以上を保つ事を目指す

目標・ゴール達成による効果

　昭和大学の理念「まごころと持てるかぎりの知識と技術をもって、医療を実践」に基づき、当科では神経救急疾患の患者さんに対して緊急に対応するため、当院では 24 時間 365 日救急患者受け入れ、常時検査受付が可能な体制を敷いている。神経分野の精査入院という側面がある以上、すべて神経救急対応疾患となることはないが、神経救急の応需を出来る限り実践するため、年度による比較により、神経救急の応需の向上につながるものと思われる

目標・ゴールに対する成果の状況

脳血管障害・神経感染症・急性脱髄疾患・急性末梢神経障害・急性神経筋接合部疾患・急性筋疾患・発作性機能性疾患の入院患者数　/　脳神経内科領域の全入院患者数

＝（187+31+31+28+7+15+98）/555　　＝　0.715…

71.5　%

目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

☐S　:大幅に目標を上回った
☐A^{+}:目標を多少上回って達成
☑A　:目標を達成
☐B^{+}:目標を少し下回った
☐B　:目標を下回った
☐C　:目標を大幅に下回った
☐ー　:外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

2022 年度もコロナ禍の影響で、病棟の入院制限などがあり、入院は不要不急の精査入院の比重が低くなり、一方で神経緊急疾患に偏りが見られたため目標を容易に達成することが出来たが、あくまで 2022 年度も例外である。神経救急の応需の実践という点において、年度による比較により神経救急の応需の向上につながるこの指標を継続することが肝要と判断し、継続してこの目標を掲げることが好ましいと判断した。